

機動隊、一日に二回

東教大、抗議の教官もしめ出し

東京教育大学は十一日、三回にわたり機動隊が導入され、集会にわたって解散を命じたあと、中の学生が排除された。さらに大規模な機動隊導入、約半数の学生をいっただけ排除した。しかし、残った学生が、機動隊導入に抗議してシャッターを閉じたため、機動隊は再び機動隊を導入した。学生はまたその後も本館前で抗議集会を開き、大学側は午後六時すぎ三たび機動隊を導入して学生を拘外に押し出した。この騒ぎで警視庁は学生十人を公務執行妨害、不退治罪などで検挙した。

7/25 ヨミウリ 朝刊

反対派の講演不許可

東教大当局

東京教育大学は十六日、文学部の修論反対派教官が学術講演会開催のため予定していた会場の使用を一旦見直しを求められた。として不許可にした。

7/17 ヨミウリ 朝刊

東教大に機動隊

東京大学の東大教養部で、二十二日午後臨時生じる、全英園生百五十人が、代表員大会を開くと正門前に集まった。自治会の学生などが、正門を閉じたため、会場の学生は、東大教養部の校舎内に逃げた。東教大当局は機動隊を投入し、機動隊員が同校舎内にはいった。

7/25 ヨミウリ 朝刊

東教大文学部 教授ら要切書

移転反対で

筑波研究学園都市への移転を評議会で最終決定した東京教育大学の移転反対派、元文学部長和歌山

太郎教授、前期学部長小寺明教授らが二十五日午前、坂田文相あてに「評議会は全学一致して移転を決定したといっているが、それは事實ではない。むしろ評議会の決定によって学内分裂という結果を生じ、そのことを十分認識してほしい」と要切書を出した。

7/25 ヨミウリ 朝刊

副学長制で「管理」

東教大 新大学構想を了承 評議会

東京教育大学(筑波研究学園都市)は四日午後、評議会を開き、学内の筑波移転計画に関する「基本構想」が採用された。「筑波移転」は、筑波大学の基本構想」を改訂した。

副学長制の採用、評議会の採用などを骨子として、現在の大学の姿を大きく改めるもの。

全教員は、原則として大卒のいすれかの課程に所属し、研究体制の中心は大学院と研究所の複合体とする。

一方、学生の地位については、教育面では、学術評議制を附し、専攻別のカレッジ(四年制)一学年の定員百人前後、を十三種で設ける。

7/5 朝日朝刊

近く収用裁決を申請

学園都市 不在地主八人に

住宅 公団

筑波研究学園都市への移転する研究学園都市の用地収用裁決を申請する。日本住宅公団では年内に買収を完了させるため、不在地主八人が所有する用地に強制収用裁決を申請する方針を固め、近く東京府議会に対し収用裁決の申請を行なう。研究学園都市の建設用地については、一団地の申請をめぐって、四

年度までに収用裁決を申請し、農地転換、国立大学などが移転している。

7/5 朝日朝刊

7/5 朝日朝刊